

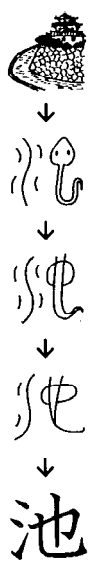
池

三年

画数 6
筆順

池 池 池 池 池 池
いけ

成り立ち



へびのかたちをあらわした「也」と、「水」のいみの「シ」とをくみあわせてつくった字。へびがとぐろをまいたように、おしろのまわりをとりまいた「おほりのいけ」をあらわした字です。

これは、よそからしんにゆうできないように、おしろのまわりに「人工的」に水をためてつくるものですから「人工的に水をためたもの」を、かたちにかかわらず、「池」というようになりました。

使い方

▽むかしは、のみ水はもちろん、さくもつをつくるのに水はたいせつでしたから、「ため池」がいたるところにありました。いまでは、ダムをつくって川をせきとめ、大きな貯水池をつくるようになりました。

熟語例

- ▽ため池（水をためてつくった池。のみ水、ぼう火、田水、さくもつ用などに水をためておく池のこと。）
- ▽貯水池（貯は「ためる」こと。水をためておく池、ということで「ため池」とおなじいみのことばですが「ため池」より大きなものをいいます。おおくは、ダムで川をせきとめてつくり、「池」というより「湖」といったほうがよい大きさです。東京近辺の多摩湖、狭山湖、奥多摩湖、相模湖などはみなこれです。）
- ▽電池（池は「ためておくところ」といういみ。電気をためておくもの。蓄電池と乾電池とあります。）
- ▽湯池（熱湯の池。「かたいまもり」を「金城湯池」といいます。）
- ▽池魚の殃（火事をけすのに池の水をつかったため魚がしんだ、ということから「そばづえ（まさぞえ）」

知

三年

画数 8
筆順

知 知 知 知 知 知 知 知
しる

成り立ち



むかしは、「はやい」ことを「矢（2年148）」のようには「やい」といいました。その「矢」と「口」とをくみあわせてつくった字です。

ものごとをよく「知」つていいますと、こたえが「口から矢のようにはやく出てくる」でしょう。それで、矢と口とで「知る」といういみをあらわしました。

また、ものごとをよく知っていますと、しごとがうまくしよりできますので、「おさめる」といういみから、都道府県の長官を「知事」といいます。

「智慧、智能などの「智」は、今は「知」で代用されるようになった。「知恵」「知能」と書かれる。」

使い方

- ▽ぼくは、のりものについて、いろいろな知識があります。
- ▽地震を予知することができれば、どんなにたすかるだろう。
- ▽ぼくには、知らないことが、たくさんあります。「大きくなったら、わかるわよ」と、おかあさんは、いいます。でも、ぼくは、いま、いろいろなことを知りたいのです。なんとかして、知りたいことが、ぜんぶわかったら、いいなあと思います。
- ▽わたしは、太陽がうごかない星だということを、知っています。太陽は、ひがしから出て、にしにせずむけれど、ほんとうは、地球がうごくから、そう見えるだけなのです。このことは、本をよんで知りました。

熟語例

- ▽知識（あることについて、知っていること。）
- ▽予知（予め知ること。まえもって知ること。）
- ▽通知（知らせること。知らせ。「町内のもよおしもの通知があった」などといえます。）